

「西日本ごう雨災害から学ぶこと」

広島県 熊野町立熊野第一小学校 5年 <sup>なかしお</sup>中塩 <sup>なるみね</sup>成嶺

2018年7月6日、西日本ごう雨災害が発生しました。その時、ぼくは4才でした。

お母さんが仕事から帰って来る6時すぎまでおばあちゃんの家に行きました。お母さんがむかえに来て帰りましたが、おばあちゃんの家のおすぐ前にとめた車に乗りこむだけで全身水びたしになりました。家に帰ると中、道路は川のようになり、道路の横を流れる川はあふれるくらいの水位になっていたとお母さんから聞きました。ぼくは小さかったので、あまり覚えていませんが、あちこちで道がくずれて通れなくなったため、その日の夜は、お父さんは帰って来なくなり、お母さんとふたりで不安な夜をすごしたことは覚えています。窓の外を見ると、ふつうの大雨とはけたちがいのバケツをひっくり返したような雨がふっていて、テレビの音も聞こえにくいほどのバリバリと窓をたたきつけるような音もしていました。お父さんが家に帰れたのは2日後でした。

ぼくの住む熊野町では川角地区で大きな土砂くずれがあり、12人の命がうばわれたことを知り自分にもそういうことがおこるかもしれないと思うとおそろしいと感じました。

土砂災害の後も、当分の間、断水で水が使用できない地域があったり、道がくずれているのであちこちでじゅう帯をして通きんなどの移動が大変だったり、とても不便な生活だったと聞きました。

物流がとどえて商品がとどかないので、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの棚が空っぽになっていたそうです。

水や電気、ガスが自由に使えて、車で自由にどこへでも行けたり、お店に行けば何でも手に入る生活は、当たり前ではないのだと感じました。

当時のことをもっとよく知るために西日本ごう雨災害についてまとめてあるビデオを見ました。それは、となり町の矢野町で起こった土砂災害についてのビデオでした。道路脇の自動販売機のとなりに設置された防はんカメラが雨の強まり始めから道がだく流でうめつくされるまで一部始終をとらえていました。最初は、いつも通り車が進んでいました。やがて、道に水があふれて川のようになっていました。車は土砂くずれで進めなくなり、Uターンし始めました。さらに、水があふれてだく流となり進めなくなった車が次々と流されていきました。流された車の中に乗っていた人の話も聞きました。その内容は、流され始めたら何もできず、ただ流されていくしかなかった。車ごと川に落ちないように願うことしかできませんでした。でも本当にこわかったのは、だく流で車ごと流されてしまうことではなく、障害物にあたって車が停車し、割れたフロントガラスから水が入って来て、入って来た水が自分がすわっているシートと同じ高さまで来ておぼれそうになったことが一番こわかったことです。もし自分だったら水が苦手だし、もっとこわいと思います。

水は、飲んだりお風呂に入ったり、ぼくたちの暮らしの中のととても身近なものです。しかし、災害の時はとてもこわいそんざいになります。いつも通りの雨だと思っていたら命をうばわれたり大きなけがをすることもあります。一番大切なのは、早めにひなんすることだと思います。しかし、西日本ごう雨災害の広島県のひなん率はわずか0.3%でした。このひなん率の低さがひん害者が多く出た原因だと思います。

もし今後大雨がふったらゆだんせずに冷静にテレビなどから情報を集め、はん断し回りの人に声かけしながらひなんしようと思います。そのときに家族といっしょにいるとはかぎらないのでふだんから家族とひなん場所について話し合っておく必要があると思いました。